

## 施策 20

## 地域ゆかりの文化の保存と継承

- 対象** 市民，文化遺産
- 目的** 文化遺産や伝統を次世代に伝え，郷土への愛着をはぐくむ
- 意図** 文化遺産を保存し，学習素材やまちづくりに活用する

### 〇 施策の方向

地域ゆかりの文化資源や歴史・文化遺産を保存・活用することにより，次の世代に継承し，ふるさと調布に対する愛着を育みます。

### 〇 施策のポイント

- 幅広い世代が歴史や地域ゆかりの文化にふれられる環境の整備
- 歴史・文化遺産の利活用の検討（国史跡下布田遺跡，国史跡深大寺城跡，国登録有形文化財真木家住宅，国登録有形文化財旧武者小路実篤邸など）
- 深大寺白鳳仏等の文化遺産を活用した調布の魅力を高める取組の推進
- 武者小路実篤記念館を核とした特色ある事業の展開

### 基本的取組の体系

#### 施策 20 地域ゆかりの文化の保存と継承

基本計画事業

##### 20-1 史跡・文化財の保存及び活用

国史跡下布田遺跡の整備・活用

p.172

郷土の歴史・文化を核とした展示・普及事業の推進 p.172

##### 20-2 地域ゆかりの文化を生かした事業の展開

武者小路実篤を核とした特色ある事業の展開

p.173

### 〇 現状と課題

- 市内には，郷土の歴史や文化・自然に関する様々な資料を展示している郷土博物館や，明治から昭和にかけ文学や美術をはじめ幅広い分野で活躍した武者小路実篤の生涯と業績を紹介する武者小路実篤記念館，実篤公園などの施設があります。
- 過疎化，少子高齢化などを背景に，文化財の滅失や散逸等の防止が喫緊の課題であることから，平成31（2019）年の文化財保護法の改正により，国は，地域における文化財の計画的な保存・活用の促進や，地方文化財保護行政の推進力の強化を図ることとしています。引き続き，次代に着実に継承すべき貴重な財産である文化財の所有者や関係する団体などと協働し，これらの歴史・文化遺産の適切な保護と活用に努める必要があります。
- 調布市には，縄文時代晩期の祭祀や墓にかかわる国史跡の下布田遺跡や，戦国時代前期の扇谷上杉氏の支城である国史跡の深大寺城跡，国登録有形文化財（建造物）である真木家住宅等の歴史・文化遺産があり，それぞれ保存や整備，活用に向けて取り組んでいます。



郷土博物館

○ 国史跡下布田遺跡については、史跡下布田遺跡保存活用計画（平成31（2019）年3月策定）に基づき、史跡の保存と活用に向けた取組を進めています。国登録有形文化財真木家住宅については、隣接する公園と一体的な有効活用について引き続き検討をしていく必要があります。国史跡深大寺城跡については、引き続き、国及び東京都と調整を図りながら第3郭を含めた整備と活用を検討していく必要があります。



武者小路実篤記念館

○ 平成29（2017）年9月、深大寺の「銅造釈迦如来倚像（通称白鳳仏）」が国宝に指定されたことを契機に、深大寺と連携した事業を展開してきました。ラグビーワールドカップ2019™日本大会及び東京2020大会開催に伴う来訪者の増加を見据え、引き続き、市内文化財の活用を図りながら、調布の魅力を高める取組を推進するとともにその魅力を市内外に発信していく必要があります。

○ 郷土博物館では、郷土の歴史や文化・自然に関する様々な資料の展示や講座・講演会等の事業実施により、市民に地域ゆかりの歴史や文化遺産に触れる機会を提供しています。また、祭ばやし保存大会を開催し、地域の伝統芸能に触れる機会を提供しています。



深大寺水車館

○ 武者小路実篤記念館では、明治から昭和にかけ文学や美術をはじめ幅広い分野で活躍した武者小路実篤の生涯と業績を紹介しており、「実篤・白樺派・新しき村」に関する情報収集発信基地として資料収集、収蔵品の展示、多様な普及事業、データベースやホームページによる情報提供、調査研究、レファレンス（資料相談、資料参照等）を行っています。今後も引き続き、指定管理者制度を活用した魅力的な事業展開や効果・効率的な施設の維持・管理を行う必要があります。

○ 図書館の地域資料や映画資料及び郷土博物館の考古資料や民俗資料等、貴重な資料を次世代に継承するため、適切な保管を図っていく必要があります。

## 基本的取組の内容

### 20-1 史跡・文化財の保存及び活用

#### ◆文化財等の保存と活用

国史跡である下布田遺跡の保存・活用に向けて取り組むとともに、深大寺城跡の整備・活用について、引き続き検討していきます。国登録有形文化財（建造物）である真木家住宅について、隣接する公園等との一体的な活用に向けて引き続き検討していきます。また、祭ばやし保存大会を開催し、郷土芸能の保存や後継者の育成を支援します。

#### ◆地域ゆかりの歴史・文化遺産等の活用と継承

郷土の歴史・文化遺産や地域ゆかりの著名人の文化・芸術活動等に関する展示・普及事業を推進します。また、郷土の歴史・文化遺産に関する資料を調査・研究・収集・保存し、次代に継承していきます。

#### ◆国宝深大寺白鳳仏等の文化財を活用した調布の魅力発信

ラグビーワールドカップ2019™日本大会や東京2020大会を契機とした来訪者の増加を見据え、国宝指定された深大寺銅造釈迦如来倚像（通称：白鳳仏）をはじめとした、市内文化財の活用を図りながら調布の魅力を高める取組を推進するとともに、その魅力を市内外に発信します。

### まちづくり指標

指標名	基準値	目標値
文化遺産の数 （国・都・市指定等文化財）	74件 （平成29（2017）年度）	79件 （令和4（2022）年度）

## 基本計画事業

No.	63				
事業名	国史跡下布田遺跡の整備・活用	区分	拡充	担当課	郷土博物館
事業の概要	縄文時代晩期の下布田遺跡を適切に保存し、有効活用するため、史跡下布田遺跡保存活用計画に基づき、史跡公園の開園に向けた取組を進めます。				
年度別計画	令和元(2019)年度	令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	
	○保存・整備に関する検討	○継続	○継続	○継続	
	○史跡の保存管理と周知	○継続	○継続	○継続	
	○史跡整備基本計画の検討	○史跡整備基本計画の策定	○史跡整備基本設計	○史跡整備実施設計	
事業費 (百万円)	7	9	10	12	

No.	64				
事業名	郷土の歴史・文化を核とした展示・普及事業の推進	区分	継続	担当課	郷土博物館
事業の概要	郷土の歴史と伝統文化に関する調査・研究や資料の保存を行うとともに、身近な地域の歴史について学ぶことができる展示・普及事業を推進します。				
年度別計画	令和元(2019)年度	令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	
	○展示・普及事業の実施	○継続 ・オリンピック・パラリンピック関連事業の実施	○継続	○継続	
	○「子どもはくぶつかん」の実施	○継続	○継続	○継続	
	○学習機会についての情報発信	○継続	○継続	○継続	
	○学校教育連携事業の実施	○継続	○継続	○継続	
事業費 (百万円)	3	4	3	3	

## 20-2

## 地域ゆかりの文化を生かした事業の展開

## ◆地域ゆかりの著名人の文化・芸術活動等の展示紹介・普及事業の推進

郷土の歴史・文化遺産と武者小路実篤の文学・芸術活動等について、資料の調査・研究・収集・保存を進めるとともに、展示や講座・講演会を開催して普及・啓発に努めます。

図書館では、調布市名誉市民水木しげる氏の作品や、市内の映画・映像関連企業と連携・協働するなど「映画のまち調布」の特色を生かした事業展開にも取り組んでいきます。

## ◆武者小路実篤記念館を中心とした事業の推進

武者小路実篤記念館においては、実篤研究の情報収集発信基地としての機能を充実させるとともに、次代を担う子どもたちに対する積極的な働きかけを行うことによって、良質な文化に触れ、豊かな心を育み、郷土に愛着と誇りを感じることができるよう努めます。



武者小路実篤記念館

## まちづくり指標

指標名	基準値	目標値
郷土博物館・実篤記念館の合計入館者数 (実篤公園利用者を含む)	5万1,292人 (平成25(2013)年度 ～平成29(2017)年度平均)	5万5,000人 (令和4(2022)年度)



基本計画事業

No.	65				
事業名	武者小路実篤を核とした特色ある事業の展開	区分	継続	担当課	郷土博物館
事業の概要	武者小路実篤を核とした特色ある事業を充実させ、地域教育・文化の向上へ貢献し、全国へ特色ある事業の魅力発信します。				
年度別計画	令和元(2019)年度	令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	
	○展示活動の実施	○継続 ・オリンピック・パラリンピック関連事業の実施	○継続	○継続	
	○教育・普及事業の実施 ・博学推進プログラムの実施	○継続	○継続	○継続	
	○収蔵品の整理・保存、修復、複製の制作、公開・活用	○継続	○継続	○継続	
	○情報提供システムの運営	○継続	○継続	○情報提供システムの更新検討	
事業費 (百万円)	16	18	16	16	



仙川の家で画を書く武者小路実篤（昭和36（1961）年）



武者小路実篤の作品

参加と協働の視点

～市民等に期待される役割～

- 市民は、地域にゆかりのある歴史・文化について理解を深め、次世代への継承に努めます。
- 事業者は、文化遺産の保存や調査について協力します。

多様な主体との連携事例

○ 調布市郷土芸能祭ばやし保存大会

調布市郷土芸能祭ばやし保存会は「調布の祭ばやし」（市無形民俗文化財）の保存と地域文化の向上を図り、市民の郷土愛を育成することを目的として昭和31（1956）年4月に結成されました。

調布市教育委員会との共催により、昭和33（1958）年8月に第1回大会が開催されて以来、平成30（2018）年7月の大会をもって第61回を迎えました。

現在、市内各地区の大人はやし11連と子どもはやし4連が活躍しています。

【所管課】郷土博物館

【協働のパートナー】調布市郷土芸能祭ばやし保存会



<調布市郷土芸能祭ばやし保存大会>